

これからの「地域と学校の協働」

「地域と学校の協働」をテーマとした、第10期東京都生涯学習審議会（会長：今野雅裕 政策研究大学院大学特任教授）では、「地域と学校の協働」を推進する方策について審議を重ねて、平成30年2月に「中間のまとめ」を出しました。

「地域と学校の協働」を推進する方策について -中間のまとめ- 概要・全文

今後東京都が目指すべき地域学校協働活動の在り方とそれを実現するための方策や役割分担について提言

東京都生涯学習審議会 地域と学校の協働

検索



「地域の実情を踏まえた多様な地域学校協働活動」の具体化に取り組んでいる地域の中から、東京都生涯学習審議会の委員でもある教育長に、「地域学校協働活動」への期待についてコメントを頂きました。

本部はwinwinの関係を再構成する“魔法の鏡” / 品川区教育委員会教育長 中島豊

本区では、校区教育協働委員会（学校運営協議会）と学校支援地域本部（地域学校協働本部）が両輪となって事業を展開するとともに、この二つの組織と学校が有機的に機能するための調整者として、学校地域コーディネーターを各校に1名（義務教育学校は2名）配置しています。コーディネーターは職員室にデスクを置き、学校と地域との様々な連絡・交渉等を精力的に実施しており、学校関係者からは、「コーディネーターなしの学校・学年運営は、もはや考えられない」などの評価が寄せられています。

このような協働体制は、どの学校にも既に存在しているPTAや地域のボランティア活動を束ね、組織化することで各地域の実情に沿ってスタートすることが容易です。もちろん、そのためには教育委員会がその必要性和効果を認識し、仕組みづくりを支援していくことが求められますが、コミュニティ・スクール（CS）は次代の地域と共にある学校づくりを創る核となり、そこに集う多くの人々をwinwinの関係に再構成する現代の「魔法の鏡」なのです。

品川区における地域学校協働の仕組み



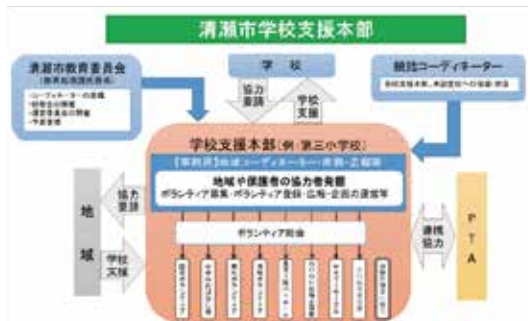
地域学校協働活動を安定的・継続的なものとしていくための仕組みとして、平成28年度から計画的なコーディネーターの配置と活用を進め、平成30年度には全小・中・義務教育学校でのコミュニティ・スクール（CS）体制が整います。

広がる～子供たちの育ちと学び そしてまちづくりの輪～ / 清瀬市教育委員会教育長 坂田篤

「学校の限界を教育の限界にしない」。この15文字に地域との協働の一つの理念が集約されています。地域・社会には実に様々な教育資源が眠っています。学校ではなかなか学べないことを教えてくれる人たちがいるし、もっと追究したいという子供の願いをかなえてくれる機関があります。自分のペースでじっくりと考えたり試したりできる場があるし、郷土を愛し誇りを抱かせてくれる材料がたくさんあります。学校が地域と協働することで、子供の育ちや学びがどんどん広がっていくのです。

「元気な学校の周りに元気な地域ができる」。この18文字にもう一つの理念が込められています。自らが持つスキルや経験を「教える」「伝える」ことは、「文化の伝承・継承」だけでなく、伝える側に元気を宿します。学校支援で共に汗を流した人々が、近所のスーパーでもあいさつを交わすようになれば「つながり」が創られ、まちづくりのエネルギーの輪が広がっていきます。まずは「できる人が、できることを、無理なく」を合言葉にじっくりと取り組んでいます。

清瀬市の地域学校協働に向けた取組展開図



学校力の向上とともに、地域コミュニティの醸成を図ることを目的に、平成28年度から「学校支援地域本部」のモデル的設置とその定着を目指し、その上で将来的なコミュニティ・スクールへの発展を展望しています。